（様式1）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0572710424		
法人名	有限会社 Slow and Slow		
事業所名	グループホーム悠々庵花ごよみ （1号棟）		
所在地	秋田県横手市大雄字西舘合75		
自己評価作成日	令和5年11月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http: //www. kai gokensaku. j p/05/i ndex. php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和5年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホーム周辺は四季折々の風景を楽しめる環境にあります。「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」を運営理念に掲げ、利用者のペースに合わせた支援を行なっています。職員は日々の業務の中で利用者と一緒に家事作業が行えるよう、常に環境を整えています。また、職員の介護力アップのため、内部研修や外部研修に参加し、資格取得に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」という理念は「Slow and Slow」という法人名に由来し、設立当初から引き継がれ、日々の生活の中で利用者の動きを見守りながら一緒に行動することを常に心掛け、家庭的な雰囲気を大切にしたケアを実践している。協力委託医院や訪問看護ステーションとは良好な関係が築かれ、利用者が適切な受診や看護を受けられる体制にあり、24時間体制で対応してくれることが大きな支えとなっている。外出支援が従来のようにできていない状況にあるが、旬の食材や手作りの行事食を多く取り入れ、利用者と一緒に調理したり味わったりと、楽しめる場面作りを積極的に行っている。職員の資格取得の奨励(研修、受験料の負担等)、管理者自らが講師となり、医療や介護の専門的な知識習得のための勉強会を行う等職員のスキルアップに向けた取り組みを行っている。また、代表や管理者はじめ、職員同士が話しやすく、風通しの良い職場であることがうかがわれた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：19,20）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：14）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：19）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：41）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
53	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：8,9,15）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,16）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
57	職員は、活き活きと働けている（参考項目：10）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」を全職員が共有し、意識しながら活動している。	「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」という理念は「Slow and Slow」という法人名に由来し、開設当初から引き継がれている。日々の生活の中で利用者の動きを見守りながら、一緒に行動することを常に心掛けたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症が5類になったが未だ交流を図るには躊躇している現状です。	感染症防止対策の一環で、積極的な地域交流には至っていないが、防災週間の際、町内の方が火の用心の声掛けをしてくれたり、大雄祭りのチラシを届けてくれたりしている。また、町内を練り歩く梵天行事をホームの窓から眺め楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	機会ある毎に認知症について地域の人々に伝えているが、コロナ禍の中、充分行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為運営推進会議は、文書での報告となっている。	新型コロナウイルス感染症が5類になったが、感染症防止対策の一環で書面報告を継続している。書面報告後、各委員からの意見等は特に上がってきていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回程、横手市の相談員の受け入れを行なっているが、昨年と今年度は相談員の訪問を中止させていただいている。	横手市の介護相談員の訪問はまだ再開されていないが、「介護相談員だより」で情報提供を受けている。家族からの依頼で介護の更新申請代行も行っている。生活保護担当ケースワーカーとは電話等で連携している。	
6	(5)	○身体拘束<u>及び</u>虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について委員会を定期的に開催し社内研修会を行い日頃のケア等を省みる機会をもち虐待防止に努めている。	虐待防止委員会を年2回(8月、1月)開催の他、年間計画に基づいた研修を実施している。研修の講師は毎回管理者が務め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修を受講する機会を設けることができない状況です。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書等を分かりやすい言葉を使用しながら説明し、一つひとつ意向を確認しながら同意を得ている。		
9	（6）	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	意見箱は設けていないが、面会時や電話等で、利用者家族に要望や意見を述べて頂いている。また、要望や意見については職員間で話し合い改善できるよう努めている。	利用者からの意見や要望は、日常会話等の中で把握している。家族からは面会や電話等で意見・要望等をうかがっている。私物購入の依頼や体調うかがい等、都度家族の要望に対応している。	
10	（7）	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	管理者、職員主体で定期的に会議を開催し、職員の意見や提案を事業所運営に反映するようにしている。	代表や管理者との定期面談の機会は設けず、随時、職員からの意見や要望、提案を聞く体制をとっている。育児休暇の取得や夜勤の免除等、家庭状況に応じた勤務形態を取り入れ、職員が働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域ケア会議に参加し他事業所との連携を図っている。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学や事前の面談を通して本人の不安や要望をしっかり聴き、本人の気持ちを受け止めるよう努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や、事前面接を通して家族等の話をしっかり聴き、家族等の気持ちを受け止めるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者から生活の知恵を学び、一緒に料理をしたり、花や野菜の水やりをしたり、喜怒哀楽を共にできるよう努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族に「花ごよみ便り」で日頃の暮らしぶりを伝え、本人の状態変化が起きた場合には速やかに報告連絡を行ない、本人の生活を家族と共に支援していくよう努めている。		
16	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	行きつけの美容院や病院、自宅への外出など本人がこれまで培ってきた人間関係や地域との関係を断ち切らないよう支援を行っている。 今年度は難しい状況です。	地元出身で馴染みの方が現在も継続して、2か月に1回の訪問理美容を行っている。外出はまだ難しい状況にあるが、通院の帰りに出身町内をドライブする等、馴染みの関係継続の支援に努めている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性を理解し、共通の話題や作業などを通して、利用者が孤立せず、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後であっても、経過を見守ったり支援が必要な場合は継続して支援を行なっている。		
19	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が、日々の会話の中から、一人ひとりの思いや意向をくみ取るようにしている。	利用者の思いや意向を日々のケアの中で把握し、「週刊○○が欲しい」「○○クリームが欲しい」「○○食べたい」等の要望に対応している。また、塗り絵や折り紙、編み物等の趣味活動の支援も継続して行っている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを回覧したり、面会時など家族から得た情報を共有し利用者一人ひとりの人となりを把握出来るように心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催して本人や家族の意向、状態などを聞き取り確認にしてケースカンファレンスを月１回行い状況に応じた個別介護計画を作成している。	本人の意向は日常ケアの中から、家族の意見は電話や面会時などにうかがっている。職員の担当制を設けてモニタリング行い、カンファレンスで出された意見を反映させた個別介護計画を作成している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	随時介護記録や介護日誌、連絡ノートを活用しながら職員間で情報共有し、実践し月1回のカンファレンスで検討した事を見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の影響で地域の行事などに参加していない状況。行事食の弁当やお菓子の依頼、訪問理容などで地域資源を活用している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得たうえで、協力医療機関による月１回の訪問診療、必要に応じて薬局への相談等適切な医療を受けられる体制をとっている。	家族の同意を得て、入居後は協力医療機関の医師がかかりつけ医となっている。月１回の訪問診療と24時間体制で医療機関と連携できる体制がとれている。薬局は薬を届けてくれたり、栄養相談の際に試供用の補助食品を提供してくれる等良好な関係が築かれている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により訪問看護ステーションと24時間相談できる体制をとっている。週1回訪問してもらい利用者の状態について相談し必要に応じてかかりつけ医に報告、指示を受けてもらっている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携により、24時間体制で緊急時の対応ができ、入退院時の場合は速やかに情報交換ができる体制をとっている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、本人家族の考えを聞くとともに、重度化した場合は事業所の指針を説明し、同意をいただいています。また、職員、家族、医療関係者等と連携を図りながら支援に取り組んでいる。	本人・家族の意向を確認し、医療関係者とも方針を共有しながら重度化や終末期の支援に取り組んでいる。協力委託医院や訪問看護ステーションが24時間体制で対応してくれることが大きな支えとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを全職員が目を通せるようにしており、定期的に実践訓練を行なっている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回（夜間想定含む）の火災・避難訓練を行なっている。 緊急連絡網に地域の方々も含めており、緊急時には協力いただく体制をとっている。	避難訓練を年2回、内1回は横手市西分署の協力を得て行っている。訓練時は地域住民の方々にも協力を呼び掛けている。BCPは現在策定中。食料の備蓄は1週間分程ある。発電機や拡声器の設置については未だ検討中。	
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴の際には自尊心やプライバシーに配慮している。目を見て笑顔で挨拶するように心掛けている。利用者の気持ちを尊重し、敬意を持った接遇に心掛けている。	排泄や入浴介助の際、ドアやカーテンを閉める等基本的なプライバシー確保は日常的に心掛けている。利用者同士のトラブルが発生した場合は、職員が間に入り場面を変える等して、双方の自尊心を傷つけないよう支援している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や寒暖差に注意しながら普段の会話から衣類の好みを把握して着替えを準備したり、本人に選択してもらうように声かけしている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	彩りや季節感を大切にして体調や口腔・嚥下機能に合わせた食事形態で提供している。同じテーブルで会話しながら一緒に摂取し、可能な範囲で片付けを手伝ってもらっている。	献立表は管理者が作成し、1号館2号館とも同様で、季節毎の行事食を多く取り入れている。近隣住民や家族から野菜等の差し入れもある。山菜等の下処理や配膳の手伝い、食器拭き、おしぼりたたみ等個々の力を発揮できる支援をしている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し摂取量が少ない場合は本人の好むものに変えて確保できるようにしている。また、必要に応じてトロミ剤を使用して安全に摂取出来るように支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に利用者それぞれに応じた口腔ケアを実施している。夜間は義歯を洗浄剤につける、定期的に歯ブラシやコップを洗浄、消毒を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄の間隔に合わせて声掛け、誘導介助している。排泄状況に応じたパットを選択している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握している。夜間のみポータブルトイレ使用の方もいるが、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間、失禁で衣類を汚していた方に、定時排泄誘導することで失禁が減少し、オムツからリハビリパンツに変更となった事例がある。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて宿便日数を職員同士で把握し、水分摂取を促したり牛乳など提供している。必要に応じて下剤の調整をして苦痛にならないように取り組んでいる。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	シャワーや湯船のお湯の温度を一人ひとりの好みに応じて調節している。あまり気乗りしない時には時間をずらしたり、別日に変更する等無理強いしないように心掛けている。	最低でも週2回の入浴を声掛けしている。声掛けに応じない場合は、トイレのタイミングで声掛けしたり、時間や日にちを変更する等して支援している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングに広い間隔でソファーを置き、ゆっくりくつろげる環境づくりに努めている。各入居者様の生活パターンに合わせて自室で休養してもらっている。室温、照明、換気に気を配っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Wチェック、飲み込みまで確認しきちんと服用できるようにしている。症状が変化した場合はかかりつけ医や訪看、薬剤師に報告、相談し内服薬に変更があった場合は連絡ノートに記載し症状の変化の観察を行うようにしている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや新聞折り等軽作業は一緒に行っており、男性には重い物を運んでもらったりしている。行事や食事などを通じて気分転換、楽しみを持っていただけるように支援しているが十分ではない。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるような行事や装飾などは提供しているが、コロナ感染症の影響もあり外出支援は出来ていない現状。受診以外の外出する機会を設けていきたい。	例年のような外出支援は実施できていない状況が続いているが、ドライブで平鹿のあやめ苑や大雄の緑花園に出かけ、季節の花々を見て楽しむことができている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理しており、必要に応じてご本人、家族様と相談して物品購入している現状。買い物などする機会を設けていきたい。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節を感じられるような装飾をしたりその時々の花を飾る等明るい雰囲気に努めている。清掃、消毒を徹底し、空間の清潔に努めている。	共有スペースは、季節に応じた装飾や花を飾る程度で、過度な装飾や掲示物を貼らないよう心掛けている。夏場は利用者の希望でエアコンはできるだけ使わず、窓を開けて外気を入れた温度管理に努めている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファーの配置を変更して入居者様同士が会話を楽しめたり出来るようにしている。また、状況に応じて座る位置を変えたり、時には一緒に座り会話の橋渡しをする等している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を使い、家族の写真や誕生日カードを飾り居心地良く過ごせるようにしている。また、室温調整や整理整頓、清潔に気をつけている。	ベッドは備品として設置されているが、他は利用者・家族の希望の私物が置かれている。衣装ケースや写真、塗り絵、折り紙作品、花等個々の好みに応じてレイアウトされている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている。居室に表札を付けて自室が分かるようにしていり。歩行能力に合わせて車椅子や歩行器の選択をしている。手すりを使って頂くように支援している。生活動線に危険な物がないように環境整備に努めている。		